

教員養成セミナー2月号
動画講義

12カ月完成
教職・一般教養
パワーアップノート

◆第1回◆教育心理
発達・学習・評価

講師：古川聡

テーマ1

学習理論

学習理論（東京都 2019年）

次の各文は、学習理論について述べたものである。正しいものを選べ。

- 1 **ソーンダイク**は、箱の中に入れられたネコが、箱から脱出するために引っかいたり、かみついたり、転げ回ったりなどの不適切な反応を積み重ねていくうちに掛け金を外すという正しい反応に至る経過から、**試行錯誤**による学習という考え方を提唱した。
- 2 **ケーラー**は、ヒヨコやチンパンジーに**移調**の可能性が見られること、チンパンジーが回り道、道具の使用、道具の制作等の洞察を表す行動を示すことなどを明らかにした。このことから、学習は**反復経験**の効果が最も重要であるという**接近説**を提唱した。
- 3 **ハル**は、刺激と反応の結合、強化の効果といった概念で学習を説明しようとした。中でも習慣強度や動因などの**仲介変数**に立脚せず、被験体の**自発的反応**を前提とすることで、行動の目的や動機づけのような問題をも説明できるようにした点に特徴がみられる。
- 4 **パブロフ**は、イヌの消化腺の実験生理学的研究を行う中で、**条件刺激**が繰り返しによって無条件刺激に変化することを発見し、こうした学習は大脳皮質の働きによるものと考えた。この概念は後の心理学に採り入れられて、学習理論の発展に大きな影響を与えた。
- 5 **トールマン**は、ネズミの**迷路学習**場面で**潜在学習**という現象の存在を指摘した。目的・期待・計画の概念を導入するなど、連合説に極めて近い考え方で、認知説から連合説への潮流の変化に果たした役割は高く評価されている。

ポイント1：学習理論（連合理論）

| 理論名 | 提唱者 | 特徴 |
|-----------|--------|-----------------|
| 古典的条件づけ | パブロフ | 刺激によって反応が誘発される |
| オペラント条件づけ | スキナー | 自発的な反応で環境に働きかける |
| 試行錯誤説 | ソーンダイク | 効果の法則によって洗練化される |

ポイント2：学習理論（認知理論）

| 理論名 | 提唱者 | 特徴 |
|-------------|-------|----------------|
| 洞察説 | ケーラー | 見通しを得ることで解決できる |
| サイン・ゲシュタルト説 | トールマン | 全体的な認知地図が形成される |
| 場の理論 | レヴィン | 行動は人と環境の関数である |

ポイント3：学習理論（社会的学習理論）

| 理論名 | 提唱者 | 特徴 |
|---------|-------|----------------|
| 社会的学習理論 | バンデュラ | 間接強化によっても学習は可能 |

知能と学力（高知県 2019年）

次の文は、知能水準と学力水準について述べたものである。（ ）に該当する語句の組み合わせとして、正しいものを選び。

知能と学習との間には一般に（ ① ）があることが知られている。しかしながら、知能に対して学習が不十分であったり、反対に予測される以上の学習が認められたりする場合もある。知能水準と比較して学力水準が低い場合を（ ② ）、能力以上の学力を発揮している場合を（ ③ ）と呼ぶ。

- | | | | |
|-----|---------|------------|------------|
| (1) | ①正の相関関係 | ②オーバーアチーバー | ③アンダーアチーバー |
| (2) | ①負の相関関係 | ②オーバーアチーバー | ③アンダーアチーバー |
| (3) | ①正の相関関係 | ②アンダーアチーバー | ③オーバーアチーバー |
| (4) | ①負の相関関係 | ②アンダーアチーバー | ③オーバーアチーバー |
| (5) | ①因果関係 | ②アンダーアチーバー | ③オーバーアチーバー |

ポイント1：知能と学力

知能は遺伝的要素が強い資質であり、学力は後天的な要素が強い資質

- オーバーアチーバー・・・・・・・・知能水準よりも学力水準が明らかに高い場合
- バランストアチーバー・・・・・・・・知能水準と学力水準がほぼ対応
- アンダーアチーバー・・・・・・・・知能水準よりも学力水準が明らかに低い場合

ポイント2：知能の理論

| 提唱者 | 理論の特徴 |
|--------|-----------------------------|
| スピアマン | 一般因子と特殊因子からなるという2因子説を提唱 |
| サーストン | 言語理解や語の流暢さなど7因子を早退した多因子説を提唱 |
| ギルフォード | 3次元でとらえる立体構造モデルを提唱 |
| ガードナー | 8つの要素があるとする多重知能理論を提唱 |
| キャッテル | 流動性知能と結晶性知能からなるという説を提唱 |

教育評価の方法（愛知県 2019年）

次の各文は、教育評価について述べたものである。正しいものを2つ選ぶ時、その組み合わせを選べ。

- ア **形成的評価**：学期末や学年末など学習がひと段落したところで、教育目標の達成の程度を総括的に明らかにしようとする評価
- イ **診断的評価**：学習指導の途上で、指導の軌道を修正したり確認したりするために行う評価
- ウ **ポートフォリオ評価**：児童生徒の学習記録や作品、感想などを時間の経過に沿ってファイルなどに整理保管し、それを利用して行う評価
- エ **総括的評価**：適切な教育目標の設定や指導計画の立案をするために、実際の指導の前に、児童生徒の学習への準備状態を診断する評価
- オ **到達度評価**：教育目標を学習の到達目標として示し、それに達しているか否かを基準に行う評価

- (1) アとイ (2) アとウ (3) アとエ (4) アとオ (5) イとウ
(6) イとエ (7) イとオ (8) ウとエ (9) ウとオ (0) エとオ

ポイント1：評価の基準

| 評価名 | 特徴 |
|-------|------------------------|
| 相対評価 | 他者と比較する集団に準拠した評価 |
| 絶対評価 | 学習目標の達成度と比較する目標に準拠した評価 |
| 到達度評価 | 観点別の達成度を明らかにする評価 |
| 個人内評価 | 個人の努力の程度を表すことができる評価 |

ポイント2：評価の時期と目的

| 評価名 | 特徴 |
|-------|------------------------------|
| 診断的評価 | 学習開始時に、準備状態（レディネスの有無）を調べる |
| 形成的評価 | 学習の途中で、習得状況を調べ、教え方の修正を図る |
| 総括的評価 | 学習終了時に、まとめの成績をつけ指導計画全体の反省をする |

評価に影響する要因（神奈川県 2019年）

次の文は、教育評価について述べたものである。（ ）に該当する語句の組み合わせとして正しいものを選び。

ローゼンタールが小学生に行なった実験では、教師が「知的に伸びる子」と信じて教えた子どもは、他の残りの子どもよりも実際に成績が良かった。この教師期待効果を、彼は（ア）と名付けた。一方で、これとは逆に、教師の子どもへの否定的な見方によるマイナス効果もある。これは、（イ）とよばれるものである。

- | | | | |
|-----|----------|---|----------|
| ① ア | ハロー効果 | イ | ホーソン効果 |
| ② ア | ハロー効果 | イ | ゴーレム効果 |
| ③ ア | ピグマリオン効果 | イ | ゴーレム効果 |
| ④ ア | ピグマリオン効果 | イ | ハロー効果 |
| ⑤ ア | ホーソン効果 | イ | ピグマリオン効果 |

ポイント

| 名称 | 意味 |
|----------------------|--|
| ピグマリオン効果 (教師期待効果) | 教師が「伸びる」と期待すると、実際に子どもの成績が「伸びる」場合 |
| ゴーレム効果 | 教師が「伸びるはずはない」と思い込むと、実際に子どもの成績が「向上しない」場合 |
| ハロー効果 (後光効果、光背効果) | 何か優れた面 (劣った面) があると、それ以外の面も当然ながら優れているはずだ (劣っているはずだ) と思い込んでしまう誤り |
| 論理誤差 | 無関係であるはずの特性を関係づけて判断してしまう誤り |
| 中心化傾向 | 極端な評価は避けて中庸な評価に落ち着きやすい現象 |
| 天井効果・床効果 | 問題が容易すぎて多くが高得点を取ってしまうのが天井効果、その逆に問題が難しすぎて多くが低得点に集中してしまうのが床効果 |
| 寛大化・厳格化 | 他者の特性を非常に甘くとらえるのが寛大化、その逆に必要以上に厳しくとらえるのが厳格化 |